

Y09b 太陽観測衛星ひので解説DVD「太陽のなぞに迫る」の制作と配布

鈴木大輔（川口市立科学館）、江越航（大阪市立科学館）、上玉利剛（かわべ天文公園）、鷹宏道（平塚市博物館）、斉藤和幸（日原天文台）、下井倉ともみ、下条圭美、殿岡英顕（国立天文台）、竹内幹蔵（島根県立三瓶自然館サヒメル）、中道晶香（群馬県生涯学習センター）、本間隆幸（府中市郷土の森博物館）、時政典孝（西はりま天文台公園）、矢治健太郎（立教大学）

2006年9月に打ち上げられた太陽観測衛星「ひので」から得られる観測データを基にして、PAONET（公開天文台ネットワーク）ひのでデータ活用WGでは、国立天文台ひので科学プロジェクトと共同で、2008年にひのでと太陽の姿を解説するDVD「ひのでが見た太陽」をリリースした。このDVDは天文教育普及関係者を主な対象として、ひのでの生み出すデータを有効に活用するインタープリターを開発し、普及する事が目的であった。その後の活用度調査によって、教育普及的な効果を確認する事ができた。

この成果を元に、2009年は、DVD「太陽のなぞに迫る」を制作し、リリースした。前DVDが天文教育普及関係者を対象としたものに対し、本DVDはさらに裾野を広げ、一般の方など広範囲にわたる普及を目指したものである。日食やキッズ向けをテーマにした4種のビデオ作品を収録している。また、HTMLコンテンツを同梱し、各種ビデオの解説ページ、太陽観測史年表、2009年7月に日本で起きた日食情報、ビデオ作品の活用として公開施設用の展示ポスター等、さらに学校教育分野向けの資料も収録した。

DVDはJST（科学技術振興機構）の広報誌「サイエンスウィンドウ」に同梱し全国の小中学校、約4万2千部配布を行った。また、埼玉県川口市では市立の小中高校の各学校にDVDの配布を行った。この具体的な活動として市内の小中学校においてビデオ作品の上映、太陽と日食について解説を行った。この活動についても報告する。